

東京教区時報

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nskk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1066号
2008年2月10日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

◇2月の代禱・信施奉献先

▽ぶどうのいえ▽東京教区神学生(大斎節第1主日)▽浦安伝道所・浦安宣教▽平和を実現するキリスト者ネットの働きのため

《奉献先から》

東京教区神学生のため

現在、聖公会神学院には関口美佐穂さん(聖職候補生・聖救主教会)と塚田重太郎さん(目白聖公

ジエローム 司祭澤 邦介

東京教区退職司祭。2月2日国立高崎病院で逝去。80歳。6日・7日に通夜・葬送式が北関東教区榛名聖公会で。東京聖三一教会・聖。パトリック教会・東京諸聖徒教会・東京聖テモテ教会・

会)の2人が神学生として学

んでいて(昨年4月入学)、将来は牧会の現場で聖職として仕えることを目指しています。2人とも社会経験や学問

の分野での広い見識をもっていて、このことは神様のこの世におけるお働きへの洞察、そして神様が造られた人間と命への深い洞察、関心へと繋がっていくことを期待してい

阿佐谷聖ペテロ教会で牧会を歴任。その間、聖公会神学院では長年、教会音楽の指導に奉職。98年定年退職後はナザレ修道院チャプレン(嘱託)として働かれ、昨年11月に退任して榛名新生会に転入されたばかりだった。魂の平安を…。

ます。「神様の命」に仕える尊い務めへの良き備えを覚えてお祈り頂けますようお願いいたします。(東京教区聖職養成委員長 司祭 高橋宏幸)

▽東京諸聖徒教会大齋学習 2月17日(日)13時「キヤンドル会」方式による聖書の分かち合い。

▽東京聖マリア教会大齋黙想会 2月21日(木)13時、ルーテル学院大学礼拝堂祈禱室。

▽城南教会G大齋黙想会 2月23日(土)10時〜16時、聖公会神学院、講話Ⅱ大畑喜道司祭。申込締め17日、三光教会宛、03(3781)2554。

▽渋谷聖ミカエル教会・目白聖公会・牛込聖バルナバ教会Ⅱ十字架の道行き 大斎中、毎金曜19時からそれぞれで。

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

マルチン教会は、来年50周年を迎えます。1月16日に、創立時代から長い間教会活動の中心として働かれた方が、尊い人生の軌跡を残し亡くなられました。

小さな教会ですが、この半世紀、マルチン教会と何らかの形で関わられた方は、千人をはるかに越えると思います。振り返ってみますと教会は公の場であるということを知らされます。

教会での出会いは、年齢、性別、職業、国籍等を超え真に多様なものです。この出会いがどれほど大きく豊かな人生の糧となつて見えます。私の周りを見回して見ますと、ボランティア活動、聖書グルー

《恵みに生かされて》

出 会 い

太田博之

されるよう努める事が必要です。多くの先人が、主イエス様のみ跡に従い信仰の馳せ場を歩んで行かれました。私もその後が続くことが出来ればと願っています。

(東京聖マルチン教会信徒)

▽：1月26日(土)、聖アンデレ主教座聖堂で行われた「聖職按手式」(植田仁太郎教区主教司式)で、東京教区に新しく2司祭・1執事が誕生した。4百人を越える教区内外からの参列者に見守られた熱い祝福のなか、新たな奉仕職への道を歩み始めた3師だった。本紙では2人の新司祭のひとことを：。「教区HPでも関連記事掲載(写真併載)」

司祭職に叙任されて

◇司祭 須賀義和

たくさんの方の祈りと励ましに支えられてケビン・シーバー司祭、大森明彦執事とともに聖職按手式にのぞみ、司祭に按手されました。翌日の日曜日に東京聖十字教会ではじめての聖餐式を司式したのですが、始まる前の緊張もさることながら、こんなにも終わったあとにホッとした聖餐式は生まれて初めて

のものでした。

司祭按手のとき、先輩の司祭様方から主教と共に頭に手を置かれるのですが、その重みに務めの重さと共に自らの栄光を求めてはならないという強い戒めを受けたような気がします。ある先輩司祭が「司祭按手の喜びは一瞬のことだ」と言われていたのを思い出します。神様と人々に仕える道のりを司祭として歩むということは、順風満帆な事柄ばかりではなく時には立

ち往生してしまうこともあるかもしれません。しかし、そうであっても「神のお許し」のもとで司祭の按手を受けたということは、不十分なものがたくさんあったとしても、なお、この器を神様が使おうとされているということなのだと思えます。

これまでの歩みと同様に、自分らしくゆつくりとした足取りで、神様に助けを受けながら教会の人々と共に歩んでいければと考えています。

(東京聖十字教会副牧師)

◇司祭 ケビン・シーバー

按手式はたまたま「聖パウロの協力者聖テモテ・聖テトス」の小祝日に行われたのですが、2人の「長老」がこの2人の長

老の日に叙任されてちようど良

いと思えました。その名前は知られ、聖パウロから2人への助言も知られているけれど、この2人のことは殆ど分からないのです。全く目立たないのです。2人が同じ小祝日に片付けられ

る人を癒し、弱く貧しい人に希望の言葉を宣べ伝え、多くの人を、ご自分への信仰に導くことがおできになると、確信しているのです。

その働きの一部にでも司祭として参与していきたいと思えます。教会が与えられた務めを果たせるため、キリストの体と血をその民に与え、そのみ言葉をやさしく説き明かしていきたいのです。役割は小さくてもかまいません。神様は小さいことを用いてくださり、キリストの力は私たちの弱さの中でこそ十分に発揮されるのだと分かっているからです(Ⅱコリント12:9)。

私も司祭として、テモテとテトスのように目立ちたくないと思

います。一方で、神様に対する期待は非常に高いです。日本において神様は大いに働いておられることを知っているからです。また、「私たちが求め、また

思うところの一切をはるかに越えてかなえてくださることができる方」だと信じているからで

す。だからキリストは、私たちの教会を通してでも、病んでい

◆大齋プログラム2

▽聖マーガレット教会大齋研修「闇の中に輝く光」(ヨハネ1:5) ①2月10日「闇の中の祝福(宣教教育担当信徒) ②17日「十字架の道行きの黙想 ③24日「力は仕えるために、弱さは共に生きるために(鳥しづ子牧師・日本基督教団) 以下3月分3回は後日、追加掲載。計6主日、いずれも13時〜14時半。

▽東京聖テモテ教会講演会

①2月17日「難民とともに23年間」浅羽俊一郎(UNHCR) ②国連難民高等弁務官事務所前パキスタン・クエッタ事務所長/23年間国連機関で活躍)。以下3月に2回(後日、掲載)、いずれも主日、13時から。

の教会を通してでも、病んでい

(聖路加国際病院・聖路加看護大学・聖ルカ礼拝堂チャプレン補佐)